ピンクの軽自動車

　「お婆ちゃん、お爺ちゃんと一緒に、ドライブしようよ」と、新社会人になった貴女がピンクの軽自動車で私を迎えに来た時、私はびっくりしました。何故なら貴女を可愛がっていたお爺ちゃんは、三年前に亡くなり、会いたくても逢えない人になっていたからです。

　戸惑っている私を外に連れ出し、貴女は、車のナンバープレートを指差して、分かる？この番号「５６３」お爺ちゃんの名前の五郎さんだよと教えてくれましたね。

　そして、私を助手席に乗せて、貴女が言った言葉。

「お婆ちゃん、淋しくないよ。お出掛けする時は、何時もお爺ちゃんが一緒だから」

　あの一言が、どんなに私を元気づけてくれた事でしょう。

　ピンクの車に乗る度に私は夫に守られ、貴女に支えられている幸せを感じます。

　ありがとう、心から感謝します。

応募時（新潟県　74歳）中川曙美